公開シンポジウム
「いま、ともに、古典（伝統知）に学ぶ意義を、考える
―現代文明の危機をのりこえるために―」

1. 主催：日本学術会議哲学委員会・日本哲学系諸学会連合・日本宗教研究諸学会連合

2. 日時：平成23年12月3日（土）13：00～17：00

3. 場所：日本学術会議講堂
※営団地下鉄千代田線「乃木坂」駅5番出口を出て左、徒歩1分。

プ ロ グ ラ ム

司会　丸井　浩　（日本学術会議会員、東京大学教授／インド哲学）
小島　毅　（日本学術会議連携会員、東京大学教授／中国思想）

13:00～13:10　開会挨拶
野家 啓一（日本学術会議哲学委員会委員長、東北大学理事／哲学）

13:10～14:40　報　告（各パネリスト 20 分）
手島 勲矢（日本学術会議連携会員、関西大学非常勤講師／ユダヤ思想）
「対話する科学のための二つの名前：中世ユダヤの伝統知から」

三中 信宏（農業環境技術研究所上席研究員／東京大学教授／進化生物学）
「科学的思考と民俗知識体系の共存：進化するサイエンスの源を振り返る」

岡田真美子（日本学術会議連携会員、兵庫県立大学教授／環境宗教学・地域ネットワーク論）
「地域ネットワークに生きる伝承知の重み」

服部 英二（地球システム・倫理学会会長／哲学・比較文明学）
「現代文明の危機と伝統知」

14:40～15:20　討議者（ディスカッサント）のコメント：全体討論に向けて
中島 隆博（日本学術会議連携会員、東京大学准教授／中国思想）
村澤 真保呂（龍谷大学准教授／社会思想史）

15:20～15:40　休　憩

15:40～16:55　全体討議

16:55～17:00　閉会挨拶
西村 清和（日本学術会議哲学委員会副委員長、東京大学教授／美学）

◆問い合わせ先：日本宗教研究諸学会連合事務局　jfssr20084@gmail.com